

秋川流域

2020.9.19

ジオの会通信

VOL. 5

秋川流域のジオサイト⑤



盆地から戸倉城山を望む



山頂からの大展望 (2020.8.18)

戸倉城山

五日市盆地の西端にある標高 434m の山。ふもとから 40 分程度で山頂に立つことができます。その展望は素晴らしく、五日市盆地の全景から、あきる台地、周辺の丘陵や関東平野を広く見渡せ、秋川流域の地形地質の全体を理解するには絶好の展望台になっています。

山頂部は秩父帯・氷川層の砂岩が分布していますが、南側の肩で五日市一川上構造線（仏像構造線）が横断し、四万十帯の小仏層群・盆掘川層の千枚岩に接しています。そのため、五日市盆地から眺めると、南側の断層部分が大きく削れ、急傾斜をなしているのがわかります。

〈目次〉

秋川流域のジオサイト⑤ 戸倉城山	1
活動報告 (事務局)	2
檜原での活動報告 (田野倉勝則)	2
戸倉城山ツアー (石井弘好) (村田文子)	3
会員リレーエッセイ (荒井悦子)	4
これからの行事予定 (事務局)	4

これまでの行事

- ・ 6月19日(金) 檜原村調査

- 6月28日(日) 戸倉城山巡検下見(事務局)
- 7月4日(土) 戸倉城山巡検(雨天中止)
- 8月18日(火) 戸倉城山巡検、全体会

檜原村の隠れたジオサイトを尋ねてきました 2020年6月19日(土) (田野倉勝則)

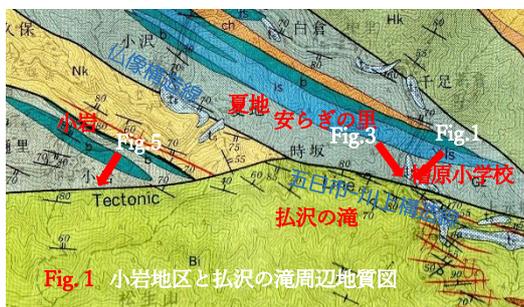


Fig.1 小岩地区と払沢の滝周辺地質図

檜原村唯一の会員吉川さんから同村の住人高平和己さんがほぼ東西に横断している五日市-川上構造線を案内したいと連絡が入りました。急遽檜原村のジオサイトを探求するグループと五日市-川上構造線グループその他数名の檜原村に關係する方に連絡し当日雨交じりの中行ってきました。10余名の会員が数台の車に便乗していざ出発です。先ず檜原小学校先の北檜原街道沿い石灰岩採取場トンネル跡を見学。払沢の滝は巡検で良く行きますが、



Fig.2 石灰岩採掘場跡

そこと目と鼻先のここに40年以上前に石灰岩の採石場があったということが驚きでした(Fig.2)。すぐ先の檜原村やすらぎの里から北秋川に降り秩父帯と四万十帯を分ける仏像構造線を見学(Fig.3)。北側にはFig.1の延長上の石灰岩の大露頭があり河原にも石灰岩の巨石がゴロゴロしていました。南側は四万十帯の特徴の砂岩帯が見え違いが明瞭にわかるジオサイトになります。足元は破碎帯の特徴の千枚岩がありました。ここで仏像構造線が盆堀川を渡り逆沢から更に千葉の方まで続く詳細説明を聞く。ここの温泉に限らず秋川流域の温泉水はアルカリ温泉水で肌に良いのが特徴です。この「うる肌感触」はアルカリ性からきていると思っていましたがそうではないとのこと。興味深いが一回聞いただけでは理解できない理論でした。ポットホールもありました(Fig.4)。



Fig.3 仏像構造線と五日市-川上構造線

小沢集落先の夏地で秋川の屈曲と仏像構造線断層の関係を皆といろいろ語ったのち、その先の小岩集落に上がりました。時坂峠に通じる急坂の林道を登りますが、標高570m峠の茶屋へ通じる直前の箇所は台風19号の影響で道路上崖が崩落しており未だ通行止めとなっています。この崩落した場所を見学しました(Fig.5)。この崩落は五日市-川上構造線の破碎帯が崩れた様です。ここの磁鉄鉱は非常に強い磁力がありその強い磁場を記録した岩清水には細胞のアクアポリン(水を通す孔)を透過するパワーがあることが解明されています。日本全国の火山帯や構造線の影響を受けた銘水が美味しく健康に良いのは、その辺りの影響か。現在は崩落土砂に埋もれてしまっていますが、五日市-川上構造線の位置的關係、岩石種の違いなど、見通しがきくので遠方の仏像構造線の一連を俯瞰できる好ジオサイトとなりそうです。さらに西進し藤倉バス停を通り過ぎ、白岩沢



Fig.4 北秋川ポットホール



Fig.5 小岩集落上部崩壊地



Fig.6 茗荷平岩清水



Fig.7 藤倉周辺地質図

沿いを進みました。林道の終点が茗荷平入口。ここも鮮烈な岩清水が流れています(Fig.6)。非常に神秘的かつ自然そのままの地であるためF、Bなどに転載などは、

盗掘・植物採取等いろいろな意味で自然破壊につながるため情報発信は慎むべきとしました。今回は一か所一か所が新鮮且つ驚きの連続。高平さん吉川さんありがとうございました。この報告に興味を持たれましたら、一緒に檜原村を探索してみませんか。

(観察地点は、挿入した地質図で確認ください)

戸倉城山巡検（2000.8.20）の報告

（石井 弘好）

新型コロナウイルスの感染が続くなか、秋川流域ジオの会の活動も休止のやむなきに陥っている。しかし会員の皆さんはどう過ごしておられるのか、そうした交流も必要ではないか、ということで7月に戸倉城山巡検（野天の活動）が企画された。

コロナ対策と熱中症対策の2つを確認し、いざ出発。最初は横穴井戸の説明。城山の麓層面にあり、水は城山の砂岩と崩れ積もった角礫層の間を通り名水となり、野崎酒造で良い酒となる。又遠くから汲みにくる人も多い。ここは仏像構造線をはじめとして倉沢断層、棚沢断層などが集まっているところ、断層が水の通り径になっている。光厳寺は鷲峰山光厳寺といい、もとは東大寺の良弁僧正が建てた慶雲寺（三島神社・不動社に面影を残す）。この地の禅宗寺院として最も古い。足利尊氏（開基）の命で慶雲寺を改修し、建長寺38世正宗広智禅師で招いて開山（1334年）したという。再開基は北条氏康（後北条3代）。寺には北朝第4代後光厳院が滞在したという記録や扁額などがある。

さていよいよ城山登攀、これは仏像構造線（五日市川上構造線が重なっている）を跨ぐ登山だという。四万十帯から秩父帯に入る、その地層の変化を観察してほしい、という話を聞いたうえで登る。はじめは四万十帯の泥岩が圧力変性した千枚岩、構造線を過ぎるとブロック状の砂岩層に変わっていく。断層線で崩落した岩壁をよじ登る（断層により崩落しているのは断層の南側・四万十帯側）。ここでは断層ガウジは見られないが、延長線上の刈寄川の露頭ではガウジが見えており、最近活動した形跡かもしれない、と解説が入る。城山山頂からの眺望は素晴らしい。さぞかし猛暑に悩まされるかと危惧していた登山だったが、風もあり心地よい。ここから見える断層線は、日向峰と今熊山の間を通り、地下に潜り遠く房総半島を横切って太平洋へ抜ける。日向峰は秩父帯、今熊山は四万十帯にある。その今熊山が隆起したため川口川の上部は逆沢に奪われた（河川争奪）。結果、今の逆沢は西に流れ、その向こうの川口川下流部は分断されて東に流れているのだ、と言う（内山説）。目の前にある五日市町層群は、1500万年前頃に隆起したが浸食で削られたもの。海の中で堆積した砂の層（伊奈砂岩部層）が残り、今見える秋川の南北の蛇行の基を作った。秋川は更に大地を削り何層もの河岸段丘を作り、更にその上に積もった火山灰などで今の地形が作られている。



さて、今いるこの城山山頂の城跡は、1300年代鎌倉・室町時代の不安定な支配体制のもとで、地侍達が自分達の土地と生活を守るために作ったもので、有事には戦い又逃げ込むための山城。1400代後半まで武州南一揆として結束してきた。その後、後北条時代になると、北条氏照の元に甲斐武田の守りにあたり、1590年豊臣秀吉に攻められ落城するまでその役割を担った。見晴らしの良い景観の下で昼食、その後予定通り下山し再びテラスに参集した。午後は更に6名の会員を加えて、全体会である。コロナ禍の下での今後の進め方を討議した。

やっぱり巡検は楽しい！（村田文字子）

地形観察ということで、構造線の通る急な南東尾根から登り、ゆるやかな北東尾根を途中から崩壊地の迂回路を下った。課題は「仏像構造線、五日市—川上構造線の境を探す」。地質図を見ながら沢を渡り、千枚岩の坂を登り、大杉の辺りで砂岩が顔を出したが、変成されており、数千年の時代の境は線ではなく幅があった。山頂でジオラマのように五日市盆地、秋留台地、加住丘陵、草花丘陵、正面に西武ドームが広がり、蛇

行激しい川と地形に魅入る。地形説明が理解できないところもあり、後日講義して戴ければ有難い。折角なので帰りに刈寄川の露頭に立ち寄り、地球のエネルギーを見て、益々秋川流域の地形に引き込まれた。

会員のページ リレーエッセイ⑤ (荒井 悦子)

サシバの渡り

サシバという渡りをするタカがいます。4月上旬頃、東南アジアなど暖かい国から繁殖のために日本にやってきます。サシバは里地里山を繁殖地として好み、ヘビ、トカゲなど爬虫類や昆虫類などを捕食します。身近な存在だったサシバは近年減少が目立ち、2006年12月に絶滅危惧Ⅱ類の指定種になりました。日本で繁殖を終えたサシバは、9月下旬～10月上旬にかけて多摩地区の上空を群れになって渡って行きます。日本野鳥の会奥多摩支部では1998年から青梅市梅の公園で観察を続けています。加治丘陵と草花丘陵が近づいてくる地形によって多くの上昇気流が生み出されます。これを利用しようとタカが集まってくるのです。



2019年度は1400羽以上のサシバを見送りました。多いときには100羽近くの大きな群れを作ります。丘陵部から多摩川上空にかけて次々集まってくるサシバは、梅の公園上空で速度を緩めて旋回を始め、高空まで旋回上昇した個体から南西へ滑空していきます。



これからの行事 コロナ禍の状況が好転しないため、今年の活動は会員対象に限定して実施します。

○全体会 (戸倉城山テラス2F 研修室) 15:00～17:00

9月19日(土)、10月17日(土)、11月21日(土)、12月19日(土)

○会員限定ジオツアー

- ・10月24日(土) 上養沢ピリク保沢ツアー
- ・11月 7日(土) 小川周辺の段丘と湧水ツアー
- ・12月 5日(土) 古道・鉄道跡と勝峰山ツアー

このほかにも、5つの研究テーマに合わせた調査会や室内実習、なども行っています。また、ジオツアーに向けた事前研修も行っています。参加については、お問い合わせください。

会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び、伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は39名です。

☆年会費 2,000円 (会計年度 1月～12月)

☆振込口座 西武信用金庫 五日市支店(024) 普通口座 1173684 秋川流域ジオの会 会計鈴木肇

秋川流域ジオの会通信 vol.5

2020年9月19日発行

発行 ; 秋川流域ジオの会

発行人; 内山孝男 編集事務局; 青谷知己

連絡先; 〒197-0814 あきる野市二宮 1300-97 池田美智子 tel 080-5470-1588